

第10回 観光統計の整備に関する検討会 議事要旨

日時 : 平成27年12月1日(火) 15:00~16:30

場所 : 中央合同庁舎2号館低層棟1階 共用会議室2A

参加者: 山内座長、菅委員、清水委員、宮川委員、加藤委員、山本委員
事務局(観光庁 観光戦略課調査室)

議事 :

- 事務局より資料説明

(1) 本年度の検討会の進め方について

- 事務局より、本年度の検討会の進め方について説明。

(2) 地域の観光統計の整備方針について

- 事務局より、推計手法及び既存の観光統計の課題について説明。
- 委員より、以下のような意見があった。
 - ・ この推計の成果は、どのように使用されるのか。
 - 観光庁が一つの基準で数字をとることで、この施策は効果があった、これはそうでもなかった、ではこれは改善しなきゃいけない、といった議論が初めてできる。各都道府県が公平な目で見ることが可能で、施策に取り組むときにも使用できるような内容にもしていきたい。
 - ・ 今回の推計手法案のように、マクロをばらすというのは一つのやり方だろうと思うけれども、実はこのような手法は、情報量は増えていない。
 - ・ 共通基準は、策定以前に行われていた過去の各都道府県の観光統計調査結果に引きずられており、明らかに実態と違うとおぼしき都道府県が見受けられる。
 - ・ サンプルサイズが小さいところは、5年平均をとる方法も考えられる。
 - ・ 本検討で行おうとする推計では、実は共通基準の入込客数は関係なく、基本的にパラメータ調査だけの話だと思う。そこは議論を分けたほうがいい。
 - ・ パラメータ調査の時は近所からの訪問者は外しているのか。また、共通基準の宿泊と日帰の比率を使って計算しているのか。
 - 近所からの訪問者は外しておらず、共通基準の宿泊と日帰の比率も使用して計算している。数値が大きくなる理由としては、パラメータ調査地点に、道の駅等日帰り客が多いと想定される場所が含まれている可能性があると考えている。
 - ・ 旅行自体を忘れているケースが多いという話がある。旅行・観光消費動向調査のほうは、3カ月前に日帰旅行に行ったかどうか忘れていたというケースがあると思うが、重要なのは、実態が旅行・観光消費動向調査と共通基準のどちらに近いかということと、なぜ両者の数字が違うかということ把握するのが第一と考える。

- 恐らく、調査員が実際に調査地点に行って調査をされるときに、比較的とりやすいような方々に声をかけてやっている。万遍なく調査するよう、そこはきちんとしないといけない。
 - 共通基準の統計概要に「日常生活圏を離れ」という記述があり、基本的には日常利用者は外しているという認識。ただ、旅行中の方に聞くのはかなり難しいので、近所から来た方に聞いてしまうケースは考えられる。
- パラメータ調査の問題点はこれに限らずいろいろあるのではないか。外国人の割合が異常に少ないことも本当にあり得るのか疑問がある。少なくとも現時点のアプローチでは比較すると、どうもこの日帰が全部過大に出るところにバイアスがあるように感じられる。

(3) 地域の観光統計WGの設置について

- 地域の観光統計WGの設置について、了承。